



学校運営協議会

今年度より、「学校運営協議会」(コミュニティ・スクール)がスタートしました。学校運営協議会とは、「地域とともにある学校」づくりを目指す組織です。校長が描く学校経営ビジョンの具現化に向けて、学校・保護者・地域が連携・協働しながら活動していきます。10名の委員の方々にご参加いただき、熟慮(熟慮と議論)を重ねていきます。



第1回目は、特に都農南小学校が守りたい宝としている「地域の文化・伝承」「中庭(ビオトープ)再生」について協議しました。

守りたい宝①「地域の文化・伝承」

都農南小学校区には、これまで受け継がれた文化があり、伝承されてきています。「南っ子太鼓」や「棒おどり」がそれにあたります。しかし、文化伝承者の高齢化や指導者の確保等に課題があり、今後の伝承の仕方について考えなければなりません。そこで、保護者の方、そして地域の方の力を借りながらこの文化を残し、継承していくためには、どのような方法があるのか、学校運営協議会で話し合いました。地域の方々からは、棒おどりの歌を歌われている地域の方の状況や太鼓を指導されている方が所属する団体を教えていただくなど、学校だけでは得ることができない貴重な情報が飛び交いました。ありがたいことです。これらの情報をもとに、子どもたちの学びを進め、深めていきたいと考えております。



守りたい宝②中庭「ビオトープ」の再生

都農南小学校の中庭には、池があり、そこに生き物が住み、子どもたちが時折学習で活用しています。南小学校の卒業生の話によりますと、この中庭は、以前は日本庭園のように美しかったとのこと。しかし、現在は、その面影はあるものの以前のような美しさを保つことができていない

のが現状です。そこで、学校運営協議会の中で、美しいと言われた時代の写真等や中庭再生に必要な人材(造園業OBの方)などの情報などについて意見が交わされました。今年度は、5年生のリクシルを含めた環境教育とも絡めながら、学習を進めていくこととなります。



地域の資源(人・もの・こと)を生かした学習

地域とともにある学校づくりを目指している本校ですが、その一環として地域の資源を生かした学習が盛んにおこなわれています。地域の資源として、様々な業種のプロ・専門家の方がいらっしゃいます。6月は、都農町の企業「イツノマ」の中川敬文さん・黒木翼さんや農業・黒木新悟さんご夫妻、黒木康夫歯科の歯科衛生士の方等にお越しいただき、それぞれの学年で深い学びを行いました。教科書では学ぶことができない人としての生き方や考え方、植物の栽培や自分の体に関する専門的な知識・技術等を学ぶことができています。地域の方々の方に感謝です。これからも、地域資源(人・もの・こと)を活用しながら学び、将来、都農町を支える人材を育てることができるよう充実した取組を進めていきます。



イツノマの授業



ミニトマトの授業



歯科指導の授業

水泳指導「見守り」に感謝

水泳の学習の見守りについてご協力をお願いしたところ、保護者の方や学校運営協議会、教育委員会、地域学校協働本部の方などたくさんの方々にお越しいただきありがとうございます。今後とも、安全な学習ができますようご協力いただきますと幸いです。



ハラスメント相談員(令和4年度)

学校：教頭・黒木賢二、養護助教諭・日高汐海
PTA：副会長・宮地雄一郎・黒木万希子

- 1日(水) 水辺調査(3年)
- 4日(金) 委員会活動(反省)
- 8日(金) 移動図書館(5年)
- 21日(木) 終業式・大掃除



文責：都農南小学校 教頭 黒木賢二

